

ジグソー法を用いて作品の主題について考える「山月記」実践

加治木高等学校国語科教諭 上赤 洋平

本実践のねらい

「山月記」を用いて、主人公李徴の生き方や考え方を、自己に引きつけ、自己の問題としてとらえさせ、作品の主題について深く考えさせることをねらいとした。学習活動を主体的・協働的なものにするために「ジグソー法」を取り入れた。

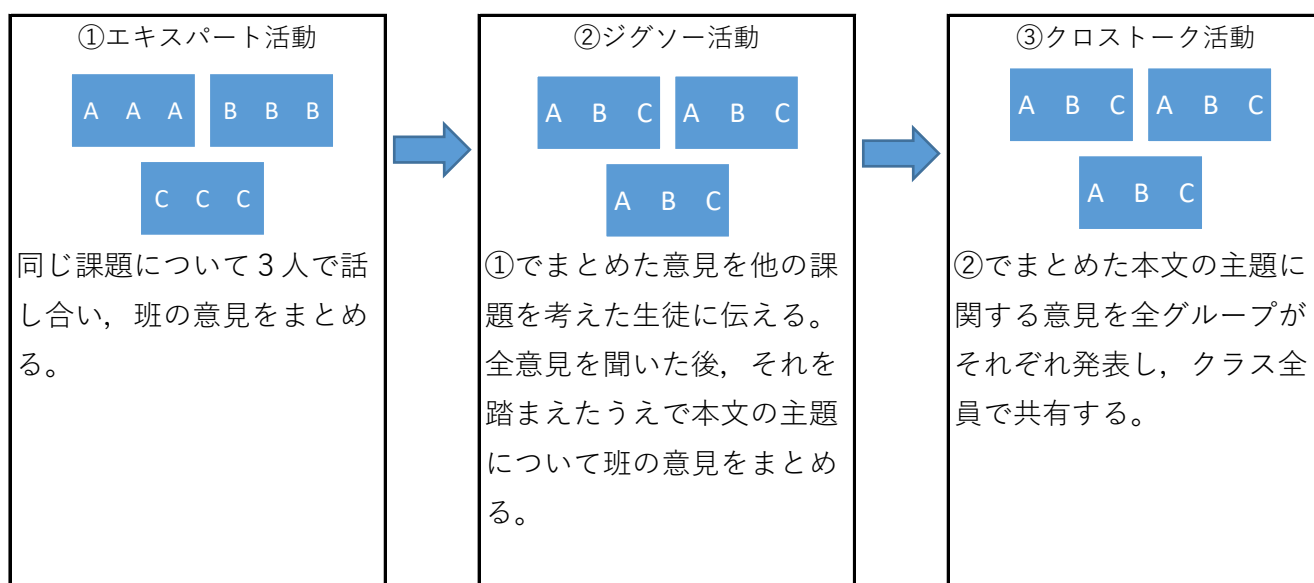
ジグソー法について

ジグソー法とは、協同学習を促すためにアメリカの社会心理学者アロンソン（Elliot Aronson）によって編み出された方法である。1つの長い文章を3つの部分に切って、それぞれを3人グループの1人ずつが受け持って勉強する（エキスパート活動）。それを持ち寄って互いに自分が勉強したところを紹介しあって、ジグソーパズルを解くように全体像を協力して浮かび上がらせる（ジグソー活動）手法。（熊本大学<http://www.gsis.kumamoto-u.ac.jp/>を参考にした）

本実践では、まず作品の主題に迫るために3つの異なる課題（A課題、B課題、C課題）を準備し、生徒をA課題班、B課題班、C課題班の3つのグループに分けて考えさせた（エキスパート活動）。

次に、異なる課題を考えた生徒から成るグループを作り、それぞれが考えたことについて説明させ、それを踏まえたうえで作品の主題について話し合わせた（ジグソー活動）。

最後に、ジグソー活動のグループ内での話し合いについて発表させるという活動を行った（クロストーク活動）。



目標および学習指導要領との対応

文章を読んで書き手の意図や、人物、情景、心情の描写などを的確に捉える。(1) イ
文章を読んで、構成、展開、要旨などを的確に捉える。(1) ア

学習活動の展開

時間	学習活動	評価規準
1・2	1. 本文を読みあらましをつかむ。 (1) 本文を音読する。 (2) 本文を黙読し、語句の意味調べをする。 (3) 場面設定をつかむ。 (4) 主人公李徴の人物像について読み取ったことを書く。	1. 作品に興味を持ち、主体的に学習に取り組んでいる。 2. 文章中の語句の意味について理解している。
3・4	2. 本文の内容理解を深める。 (1) 李徴の発言から李徴の心情について考える。 (2) それぞれに与えられたA, B, Cのエキスパート課題にまず個人で取り組む。(エキスパート活動) A課題 作者がこの作品を人間が虎になるという設定にしたのはなぜか。 B課題 この作品に袁慄が登場することで、作品全体にどのような効果を与えているか。 C課題 「山月記」は中国の古典「人虎伝」から着想を得て書かれた作品であろうと思われる。その「人虎伝」での李徴は、袁慄に詩の伝録よりも先に妻子のことを依頼している。作者(中島敦)が「山月記」においてこの順番を入れ替えたのはなぜだと考えられるか。	1. 作品に興味を持ち、主体的に学習に取り組んでいる。 2. 各エキスパート課題に取り組み、作品の理解を深めている。
5	3. 本文の内容理解を深める。 (1) 各エキスパートで3名(一部4名)のグループを作り、各課題について話しあう。(エキスパート活動) (2) A, B, C課題の担当者1名(一部2名)ずつで3名(一部4名)のグループを作り、D課題について考える。(ジグソー活動) D課題 本文の主題をまとめよう。	1. 各自のエキスパート課題に関する考えについて話し合い、作品理解を深めている。
6	4. 学習のまとめ。 (1) D課題についてのグループの考えを発表する。(クロストーク)	1. 本時の主題に関する考えについて話し合い、作品理解を深めている。

実践を終えて

ジグソー法を取り入れたことで学習活動が能動的なものになり、所期の目的を概ね達することができたと思う。ただ、エキスパート活動の際に、自分の意見を発表できない生徒がいる、意見を述べる生徒が一人に偏る班もある、等の課題もあった。今後研究を深めこのような課題を解決していきたい。

ジグソー活動の様子

